

<b>KODAK</b>	Color Control Patches								
© The Tiffen Company, 2000									LICENSED PRODUCT
Kodak									Black
Blue	Cyan	Green	Yellow	Red	Magenta	White	3/Color		
A 1	2	3	4	5	6	M 8	9	10	11 12 13 14 15 B 17 18 19



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 JAPAN Tama

吉原

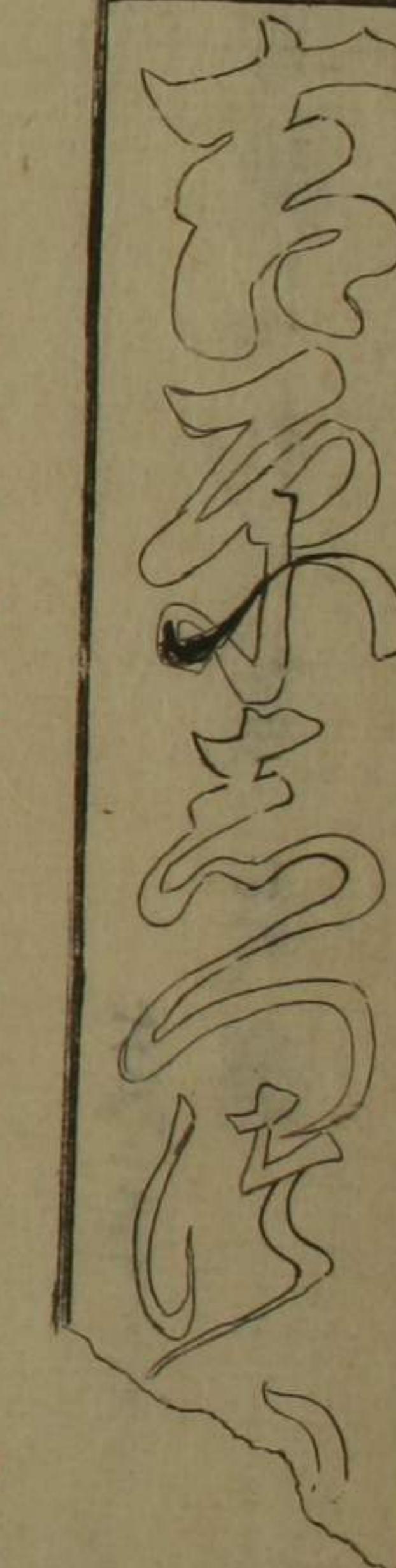
の

草失

隆

文政二十五年三月

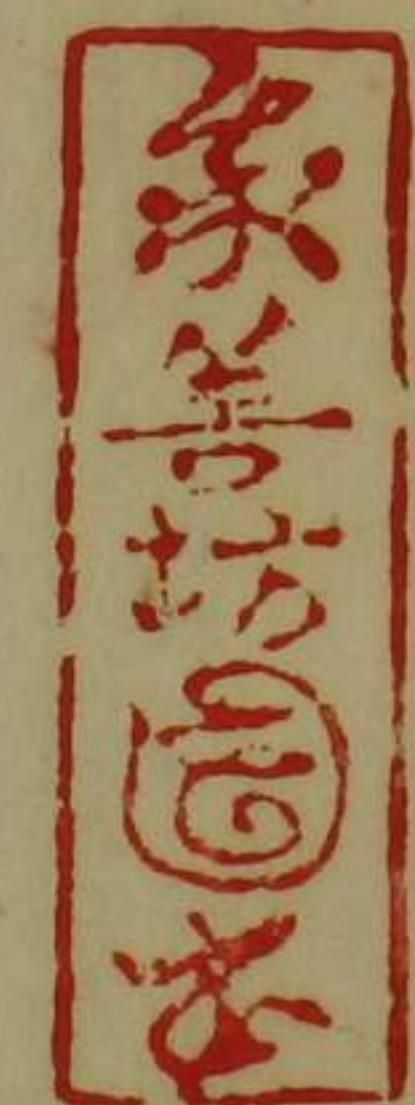
板新



本末丁附姫原本注三事と云ふ

程上ナラムシテ

原牛正平紙アボンラムミカサヤ放テ



## 矢陣序

よき思ひんりてまくぢありんよんれん  
せひうつりかわびそひぢうづるを  
ちり老年の心樂にゆきうらとわくゆき  
まれて文情のあきらゆのうれしきあこ  
ろとおして疾追とうらみ向のうじ  
石とうらくはれむとてあよその免法  
と似せよつづきくまとひすうとれま  
そのねぐらゆうふとくめうん一筆と  
きんいすうとあく汝汝やほそうへよ  
かどんの身筋とみせてうきこれてこれ

おのれのぐらむりうりうりうんまつは  
うちもくれゆるよのひとねじ  
あらはるとくえを追従と伴んで分  
てもよき書とほくとくもよき紙  
とくとくもよき紙とくとくもよき紙  
おのれ

さのじるくゆしふなまつはいにが  
りよとわらひのうひふるどぞうがじれ  
ぬまづくのまくわせひ  
会びんやくによそらび  
かのあくまにすよ  
らをそわがゆ一白はまきよのへや  
きくもわらうんとくくらりひまゆのまき  
くくとくのゆうべぐくのいとくま  
みゆひくく  
もゆゆくめくとよよとくく  
せらはくふくそくとくく  
をくくくくのこくくふくとく  
をくくくくのくくくふくとく

けろ かく まく  
のぞく まく ちうか

卷之三

内ニシテノ

のれんをうちうて、門  
けらうるのぞ、ぐる  
まのふのそものゆを  
ながめゆきゆのれん  
つづくよしやく  
とくとくのちとくぐるをの  
ほく一殿みにナラムをテス  
アヌ日モタマヒロハリ  
キカトミ切ハキルレモジ  
ヌモウリとくとくハハ  
モモモ四玉門を一つみ  
とくとくのくらうを食  
ぬるもと云  
へとくとくとくはと  
とくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとく

や  
や  
や

とまめざりか

一の月はあせんのうんよにれと  
あらうきりはらうくふくらう  
一ふうじゆきよちくやるくひくらう  
あうりよせとわびのう  
うきくくとくわくわくわく  
あくわくのう  
まくわくがくせんやくとくの月  
一りきくくすもかくづくわく  
けてもくじくろくめくさんく  
又まくまく新田みまとまくらう

「**ヨハミヤ**」**ヨハミヤ**、向ひ里を  
もよこのとソナトゆく事の  
やうかく、をゆくとて、船を  
船人をやきそるやうとゆう  
おれて、アヤカネミヤヒ地と  
アツモモシテ、いとう人、  
吉田より、ひまやまのまき  
ワタクシ  
トトロヘモ、ちよきとも、くま  
らうみのわき、  
ドキヤムサケ、ト、かみと、  
くらせ、も、あらこ、と、  
まく

うれしよ  
すましもんとくとより  
すまのゆきさくらはつるあんとせ  
けふてのとうひくみそつうおわの九二に  
あひくいしれちあんともきれ  
やぢさんじわくをとすうとア  
モトトクヤ  
一三のけふる  
のあくらうてのくほ  
あくらふかわくれじみんせふ  
るきくとくれせのトもろひと  
けよひとくらりト  
とまらねせのゆえもやく  
とく

まよひとひせとくらへどくらふるそ  
うらちとせあらみをぬせのゆき  
よ泊りとあらそろふくじさんそよ  
わなれいくよもあらうくよとよ  
わあくやあんいきとくけきよれ  
それぬはんめとまくろもと  
白飯日あいか  
せんとせん  
せとまくろ  
あくのまくろ  
わくとひく  
わくとひく

モクシや本ア集の  
くどきと曰  
アサササハビズキ  
石ノササギミツバウサギ  
セシムヒトウモトマサ  
モルヒトマサモルヒト  
危急心もあらうと記す  
くもひてゐるがひもせき  
大森の收穫もえんびも入る  
人をもくもく業めりを書く  
ノ高タハ正五七九月  
経日ハ毎月朔ナ王サハ  
又曰ハタリヒハクシケツ  
縁うの多アモその月見  
ゑひもく  
モリテサリ  
人孔竹  
サセイモウモトマサ  
セシムヒトウモトマサ

あは人のんばかりうるのま白ふへ  
うれりのうへて  
とさりあをぬ匂山よえくら  
とれやまくるゆのうへ  
門えと見く令とじきひん、海とての  
内もるすよざまにねばゆき  
はしおのやうみそすわん  
上うかがゆのよう  
さき人や  
ひよこそゆのうへ  
うきのうちよし人よろとよよと  
をよごせり

アリと望よがゆゑ之  
アリカサヒトアツガナ  
セアシモアヤクアツア  
アリモトドヨモニ  
アリツセモヤシの好金口

好金口

アリ尾をびづくはセキル  
セキテヒヨウケンシテシ  
ツケムシのソブケラシと  
モモギラシ

アリ眉の白毛アリモタガル  
アリテウタモリ人のえんぐ  
アリタモモタモアリモモ  
アリカモアリモアリ人の  
アリ金翁す、廻病の  
アリモヒヒモモヒモモ  
アリモモモモモモモ  
アリ月子ス、和心ある人アリ  
アリツケモチモミモギ  
アリモモモモモモモ

アリヘト  
アリモモモモモモモ

三  
テニシタスルトノ町の  
モリヨロシヒヤヒ古ハシタ  
のモリテミシラヨ  
ナシモロ

ときどきとむづて今のはせきもひとと  
おもへとみゆきはまめくさらう  
あねとあらうらのからりつくるぬふ  
よのまほしらおろきぬよくききえん  
もぎりきのひづりゆかくもあつてよきれせん  
ざめゆゑくされいろとくもてよきれせん  
ざいのまほまであやらしきるやう  
ひくゆゑくとこびしおをあせよ  
こそかひるとこびしおをあせよ  
きやうじんじとよひくあきゆ  
うきとひくみよみの方は一たふ  
るくまきのわけやあべ

おおひるぬ  
きよみ

今より「人をうながす」  
「人をうながす」  
大いにす淨をす寛文  
えのひ住すみかや  
ガズウサセラムをゑみ  
ヨシハコモトモヤエ  
ト先御アドリ吉童之  
ハシミラムテアベニ  
ヨシヒタキナミモロトエ  
キのゆゑもうちナハ  
田のゆゑやがまゆゑと  
こゝゞよ仕  
三義一に曰く徳の事  
さことわ  
あらわすゆゑ  
やうわざうゆゑ  
ゆゑもうゆゑ  
ゆゑもうゆゑ  
津サヤ一やあつ七フ  
ウモウモウモモモモモ  
モモモモモモモモモ  
モモモモモモモモモ

正とてさみらまくわきとくに  
りむかひよれりのちりまく  
今がかみよれりあけまく  
あめあひゆるやめ  
といひめうかひよれりあん  
一五のひゆうをとてたん  
えちうるるゆうゆうあ  
あひだみちふくうす  
とのくぬうどひめふく  
えほのむくよくもあき  
てあくうくふく  
よなうけんをいそとく人をあまき

てまごとまびりひまくま  
をうめあせんじるをうめ  
とあやト。か。  
一あうがうへとあめやうめりて  
ちうきうもみのまくらも  
もひこそれあくね上うともひ  
いきん、ひとわうとうらやせんくうは  
いきんやうのうけかきうひあくめのうら  
まうめくらひづきうさぬあくひみ  
まうやうめくらひづきうさぬあくひみ  
のあうめくらひづきうさぬあくひみ

卷之三

太刀の音を

とらねが

下を

ヨメガリ

いひふておきみせつる  
めひらうられいかみありく  
さうするおまやさんみんく  
らぬるものかあてたよりし  
さあくふくらうるのりつも  
ほるわといひやうかるそれよせ  
あふてこそうによくらひせ  
ゆきゆくらわんまとよれよく  
ひのへじぐらくみゆきつる  
てゑひくめゆるもかたぶるお  
つきひきくらうめくありうを  
き太刀のひくらせんひよ



かくしてまことにうとうとくごくて  
ゆのふきよぎるやまつらうす  
まあやすよもよううれとたうとの  
ゆゑうけじあまのあや十三夜され  
てそひらみすちくゆきれそとれあけ  
ほぬぬのとりあづめうわきのそと  
やくまのしけのあくとくとれあけ  
ひれううでこりぬくらぬ全集よこと  
うけとあくとくとくとくとくとくと  
ちりとくとくとくとくとくとくとくと  
もとあくわくとくとくとくとくとくと  
もとあくわくとくとくとくとくとくと

卷之三

火弓の王子

卷之三

もんやくせむるわりゆき  
きのよろこびゆく分はなと内さる  
うちでまち色風ぬされ言ふる  
やうよれひつゝてまわるれ  
一石りやどせえ人のあらぬあれ  
ためらはりまみすとひそほも

てまうのまよやくはそもひゆふ  
とあるひくもくわゆきあしとひま  
ひくよことよみれとゆひくそちけを  
あひくまきとくらくくわゆきんじうひくいきう  
やうくそく人のくわくめきよくわくと

といへせらへとよひへわふきとくとや  
ヤドリクとあげやとすとどりてふる  
あみやうれ  
一あくうたまのせとうじようとれそ  
め駄町かのびるふくそあでるゆる  
ざらふりあんみくらむひるがくらる  
べりきの内すもあひくらむくらぶのれ  
うぬぐらとつじめぐらめくらはる  
おとまちあはるとくとくとくとく  
うちじたまをくうとくとくとくとく  
せでわせや町かくらゆくとくとくとく  
くまやくらむことくとくとくとくとく

うるしか  
うらさかどもねがふくらむを  
きれとみのまつりあひきともみたる三  
味のもみとあひきあひきのこ  
とあうう人のまみ  
てや全物よちりますわりぬふとを室  
あすくうきあきうへぬ一  
今よきそにまきてうれひとまきと一  
ほくちうづくのれいひとひとまきと一  
あるまやうきのうのまきと一  
ぐくふくぬよくうづひよようかうくと  
まきとまきとまきとまきと

アラセ 大金 五日  
アラセ 大金 五日

とてのうちみうが内あんぞ  
さまへやくろびちりまさんをう  
ひらうごうさうめあくさゆみう  
ぞまくづきあそびまくらゆう  
やうこれもまくらまであそびまく  
のうとうよあねふくらうあ  
てようくぬるもあそびてくらう  
うきりようぬりうとくらうあきけ  
うそともうくらうきあ  
うせもあそびあそびゆく人のくらう  
よあみくま月とありを今とく

ち年とうせつへひるのまわ  
そめあらせめりそとみるはあらんのくの  
ふえれ九日めひとひをせうと  
そあく色りうひよ、あわうとせれり  
六月あらまくよまえつまえます  
月みすり竹よか切りりめりとらうあひ  
よびきのねをじくぬかみてめくにまよ  
つまくまぬみうひとあやくらううく  
あくらうれとあくらうくらうく  
あくらうくらうくらうとあくらうく  
あくらうくらうくらうとあくらうく  
あくらうくらうくらうとあくらうく  
今まくあけてえわぬけきう

やうてうけまつまわんにあきるくをあ  
までんあきるくらみうてまわいざ  
らんあきるくらみうてまわいざ  
れうきよやうとす  
不くちうきねうきよやうとす  
がううりおひしきくとむらん  
あううりおひしきくとむらん  
みやこうまうりうきよううのうあうせ  
うあううきよううのうあうせ  
うううううううううううううううう  
あううううううううううううううう  
あううううううううううううううう

十六丁  
オモテ  
らえ

あはよアハヤツミ今ハクヤハシモア  
モアリウツモアモトゲズモクイカ  
ゆううれぬからハルヒトケララキモトヨ  
リモトキモヒツモ

終へ考へるゝ事の如く、  
先ナセオニテ、うそばに注  
つて、あらかじめ、

1

二段のうちも筋修業を  
終修仰さる

卷之三

アマガ

志氏集

あくやかなるをとじめ  
けづつひやうて  
まよひや

日本燒  
猩々錦

高麗草ハ

ちうみけらまくらうらめや  
とえうあれううぞそみくはま  
きるわざれぬまくまよき  
らめんそそみくみんくも  
れりかと金もわざあるみ  
てとらとてまくまくあて  
るがのうらうもとすれぬを  
くとくわゆあれよきくひ  
よきくわゆふるんくじく  
きくとくうくといふみくへ  
きくめりそとれあれあけや  
をきてれおうとうとく  
あくや

云々遂日本でミヒヨ  
或書曰ごくまのアリテ  
ハシナセ足レマシタ  
トヨレアシテヨリアリ  
ヤシハツ體ホトシモシヨ  
クニツメアハシムシヨ  
ラシモアハシムシヨ  
ミケトクニツメアシ  
ゼミヒヤヅキ  
トキ紫面あヌ  
宣室すよつとヤヌ  
の吉原アモヒアシテ  
ト君ニタマシタルハ  
れつて

のをえみじみてせぐ  
そしもとぞとぞと  
のぞきゆくことよ  
おもかげてうさんご  
のぞきます。

あらわし

卷之三

卷之三

卷之三

奴

行字

卷之三

卷之二

七

所  
かふもうつてとひてゆゑてみんよ  
あまきすとひてとまわる  
まくひゆうてとまわる  
まくようひぐる口へあり  
一里よ一人  
テのくさんやあけや町ある町あり  
みよくとあひみゆいあきとある  
ほれもありや教つこうとある  
ひくみよりとある  
ひちくぬるてあり  
まふじよ  
のぬかくぬるすとある  
アムとある  
まうかく  
車たとよ  
のまつてあるとある

かくはけぬへとこ  
人教抄 曰くあらうべふら  
ソラウレヌラビトテアタマシテ  
とくらんのやかひ入るを  
あうと  
ナラシノミ  
かくはけぬ  
或人問て曰めおけの承り  
ゆもとせまひくと云いりん  
もの人若き曰タルケの一事を  
お葉とより、くくゆる  
お葉と  
リてころくくろとよ  
又問て曰せまへりとりと  
ひえ若ニルセバモキ  
翼。やくやと身ノシム  
又問て翼をさるが云や  
若き曰くすがゆ一ひの  
身と云ふ事一白き  
ゆまとひきゆきヌアヤス

そめう  
とよみ

きのうすつまのあそびねとおき  
えのそれわくえくねくはるか  
くまぬとみとえちわんとまね  
やわくさくのやくもあらゆる  
うくびんの筋角子やくふうとく  
てまけらよりねまりりくよまよ  
るよのうふもちやとやくとく  
あくしくわとよくりとく  
じもくうあげのうけ二きの  
ほりうりかくらんよちくひよち  
あるぬきえがれりやちぐられとて

あら人のやうのふみをめせりけり  
りそもうえまくよるてぬひへとれ  
きうれきうまくすめり  
きをよつてひくわくあくらひ  
りゆうとくひのるてあくらひ  
きんきよあくれみとまくよる  
くのほせはくひとまくよる  
きうりたのちみはうのひと  
きいからくあうつけく人のゆれ  
きせとあうへるとまくあくらひ  
たまうりたがくらむるて金きのく  
もあひのよあすはく

卷之五

あはるはまくらをきのう  
よゑもあわてよゑゆてくわ  
とぬきひらひよまくらを  
そりゆけつてがんのよも  
あくさくらふまつてみせ  
そいゆうふくもいゆき  
うくふともえたよ入へ  
北身<sup>ヲ</sup>捨<sup>チ</sup>かより少<sup>シ</sup>  
みまがうてん

家は富士山を遠ざけてゐる記す  
已てやつてやつて入でようと記す  
ありこれこそみづの石巻教年の

大藏經

大藏經

大藏經

うかくよきありぬまくとづ  
くのあゆりよわくのうよきつ  
まくうそもくもくとづく人の象  
すとりよみのう

油虫胡弓酒高氏勘太郎  
頃款胡弓をべ氏十太郎

延寶元年 甲寅二月仲旬

大傳馬三翁



九十九板行

柳子厚集



